

# 第十三回 忠順大賞

(平成三

十年度)

## 入賞作品

- ・応募総数 一七三八首
- ・久米翠雲先生 選評

## 小学生の部

豊田市長賞

堤小一年 愛知 明陽

かなしいなだいすぎだった

おばあちゃん

またききたいな百点まん点

※おばあちゃんが亡くなった。何かできると「百点満点」とほめてくれた。まだ聞きたかったよね。

豊田市議会議長賞

堤小四年 佐藤 豪

ぶかぶかだこっそり一人げんかんで

ぼくのブルーのくつはく弟

※こんな大きくカッコいいくつをはきたいな。早く大きくなりたいなと弟さんは思っているよ。

豊田市教育委員会賞

駒場小二年 高桑 侑之

おぶつだんおぼえていないじいちゃん  
んと

話しながらごはんそなえる

※覚えていないおじいちゃん。仏だんにおそなえし、お話もする。すぐそばにいるみたい。すごい！

中日新聞社賞

堤小三年 宇井 沙姫

お母さん毎日仕事がんばってる

花がらスカートだいにするよ

※食事の支度や外でのお仕事頑張ってるお母さん。花がらのスカート、うれしかったよ・・・私。

会長賞 金賞

駒場小四年 石川 結萌

弟がいない間にこっそりと

わたしは母さん一人じめする

※弟はいつも、おかあさんと一緒。今日はお母さんと二人で出かけた。よかった。うれしかったね。

会長賞 銀賞

駒場小一年 中村 美咲

弟がうまれてみんなうれしいが

わたしは少しやきもちがある

※弟が生まれ、私もうれしいけど、ママやパパが弟ばかりだから、やきもち焼けるよ。分かるね！

会長賞 銅賞

駒場小二年 手寫 美緒

雪うさぎとびおき作るうれしいな

妹わたし心もはねる  
※朝、とび起きると真っ白な雪。妹

とうさぎを作った。二人はうれしくて、飛び跳ねそうだ。

優秀賞(三名)

駒場小四年 永井 美有

チューリップようやく出てきた

芽を数え

草取りをする年末の午後

※球根がいつ芽を出すか、指折り数え待った。やっと出た。うれしくて、寒さの中で草取りをした。

堤小五年 伊藤 駿

ホームランはじめて打てた最高だ

ぼくの方より母がこうふん

※今までどうしても、ホームランが打てなかった。今回、初めて打てた。母さんも喜んでくれた。最高！

堤小六年 井戸 彩心

なぜだろう早く感じる毎日が

卒業までは笑顔でいたい

※待つ時間は長いけど、真剣に生きる時は短く感じる。この短い時を笑顔で、は素晴らしい！

\*\*\*\*\*

## 中学・一般の部

豊田市長賞

堤町 石川小智子

お母さんジャーニーズコンサート

見に行くよ

娘の電話もどる二十（はたち）に

※結婚してる娘からコンサートへの誘い。声のトーンも上がった。二十に戻った感じ。嬉しいですね。

豊田市議会議長賞

前林中三年 川瀬 譲二

久々に会って握った祖母の手を

シワシワな手の小さなぬくもり

※お小遣いをもらって、ありがとうの握手なんだね。すっかりおばあ

ちゃんの手。でも温かい。

豊田市教育委員会賞

前林中一年 菅原 星空

弟と一緒にやった腕ずもう

にぎったあの手が成長してた

※弟と小さい時から、仲良く腕ずもうしてたんだね。久々の腕ずもう、大きくなった腕、びっくり！

中日新聞社賞

駒場町 神谷すえの

せんだんの枝を切るのを待ちてやる

鶉（ひよ）たちが実を食べつくす

まで

※せんだんの剪定をしたい。しかし、実がいつぱい。鶉が飛来するまで待とうかなんて。優しいね！

会長賞 金賞

前林中三年 中野 颯大

色あせたユニホームみて思い出す

うれし涙と輝くメダル

※三年間の重みのあるユニホーム。

チームメイトと歩んだ道。貴重な人生の宝物ですね。

会長賞 銀賞

駒場町 手嶋 容子

霜柱踏み歩く子と笑いあう

ふるさとの母思い文書く

※子供を呼び起こし、霜柱踏んで遊び楽しんだ。自分の母を思った。ふるさとに文を書いた。懐かしい。

会長賞 銅賞

駒場町 清水 宣子

紫蘇摘みし汗報われる美しく

赤く染まりて梅仕上がりぬ

※梅とり、紫蘇もみ、漬けるのに塩加減等大変。上々の仕上がり、懐かしい母の味が見えるようだ。

優秀賞（三名）

前林中二年 今村 有耀

登下校地域の方にごあいさつ

返る笑顔に私も笑顔

※地域の人たちにあいさつ、凄いが、地元の人もすごいね。笑顔と笑顔が、またいいですね。

前林中三年 青柳 杏

母の日に花束もって「ありがとう」

普段は言えない魔法の言葉

※自分の感情を相手に伝えるのは皆苦手かな？でも、日頃の思いはお母さんに伝わったよ。

前林中二年 森島 万琳

一年でもらったきれいなユニホーム

今では少し糸がほどけた

※新調したユニホーム。母が汗や泥を毎日洗い流してくれる。縫い目が緩んだ、一年間の勲章だ！

無審査（一名）

高岡町 早川 寛子

五ヶ山の合掌造りの庭に咲く

藤袴に舞うアサギマダラの群れ

※五つの谷に点在する合掌造り。その庭に咲く藤袴に群れるアサギマダラ。美しい自然の風景。

前林町 甲村サカエ

図らずも昭和平成恙なく

終の住処はこの女川辺に

※結婚して六十余年、この地に定住。今まで恙なく過ごした豊かな女川辺は私の終の住処！・・・幸せ。

より二十名の入選者が決定しました。

入賞の案内をさせて頂いた電話の向こうで「昨年孫が賞をもらって嬉しかった。今年はお祖母ちゃんも頑張ってみようかなとの思いで応募したんです。」とのご返事。また、親子で入賞された方など今年も学校生活・友だち・家庭でのなんでもない風景から生まれる心温まる沢山の作品に出合うことができました。

なお昨年度から無審査として、市長賞、教育委員会賞、市議会議長賞等を複数回受賞された方の作品を載せております。今年度は二名の方が無審査となりました。おめでとうございます。

丁寧な字で書かれた沢山の応募作品を拝見しておりますと、授業・行事等で大変お忙しい中、指導・協力して頂いています小・中学校の先生方には感謝しかありません。また、地域内外から応募して頂いた大勢のかたに感謝致します。

事務局 川村

\*\*\*\*\*

第十三回「忠順大賞」に千七百三十八首の作品を頂くことができました。二月二日事務局での一次審査を経て久米翠雲先生による最終審査に